

内外教育

2020年(令和2年)8月4日(火) 第6848号
(購読料金 税抜月額4,000円)

●昭和21年12月12日 第3種郵便物認可 ●毎週2回火・金曜日発行
(但し祝日等を除く) ●発行所 〒104-8178 東京都中央区銀座
5丁目15番8号 時事通信社 ©時事通信社2020
誌面内容に関するお問い合わせ(編集部) educate@grp.jiji.co.jp
ご購読に関するお問い合わせ(業務管理部) dokusya@jiji.co.jp

時事通信社

目次

〈教育長はこう考える〉
青木千津子栃木県栃木市教育長に聞く
地域の教育力を学校運営に…………… 2~3

〈学校をカエル〉
第5回 コロナ禍の残業時間
内田 良・名古屋大学大学院准教授…………… 4~5

〈地方の動き1〉新型コロナ下でも授業を
見えた成果と課題—鳥取県…………… 6~8

〈地方の動き2〉運動会、修学旅行で「密」回避
アフターコロナの取り組み—堺市…………… 9

ポストコロナの学びの在り方議論
教育再生実行会議…………… 10

学力保障で教育課程工夫
全連小が第72回総会を紙上開催…………… 11

オンライン授業のノウハウ共有を
超教育協会が講演会…………… 12

〈わたしの学校経営〉
進士五十八・福井県立大学学長…………… 13

〈本〉対話力…………… 14

〈アンテナ・スポット〉▷顧問の暴言との因果関係認定▷通学定期券の有効期間延長に補助▷独自学力調査、小中の84%参加▷小中トイレ蛇口を自動水栓に▷中学生向けに公立高動画サイト▷全体育館に大型サーキュレーター▷オンライン履修のみの新規留学認めず▷文科省、大学入試「主体性評価」サイト停止へ、など…………… 15~19

〈ことば・ワンポイント〉MOOC(ムーク)…………… 20

〈ラウンジ〉高校改革の目玉違い…………… 20

大学の遠隔授業の効用

敬愛大学客員教授 ● 武内 清



新型コロナウイルス感染症禍で、大学は新学期より遠隔授業を始め、そのまま継続した大学が多い。学生の通学時の過密を避けたいという理由が主なものである。また、遠隔授業を行う設備とデジタル能力が、教職員と学生にあったということでもある。

遠隔授業には大きく2種類あり、一つは「Zoom(ズーム)」のように同時配信、双方向の形態、もう一つはオンデマンドの形態。学生からは、遠隔授業に対しては「皆と一緒に勉強したい」など不満も聞かれるが、授業満足度は高い(敬愛大6月調査「満足」83%)。

教室での授業より遠隔授業の方が、学生の自主的学習時間が増えるということも指摘したい。昨年11~12月に行われた文部科学省の「全国学生調査」によれば、日本の大学生は授業にはよく出席する(週に11時間以上出席72%、平均17時間)。しかし「予習、復習、課題など」をする学生は少ない(週に5時間以下が67%、平均5時間)。

米国の大学には、学生を勉強させる仕組みが整備されている。各授業の必読文献が配布され、図書館、討論、ノートの点検、レポート、試験問題と、必読文献の熟読がおのずと促され、学生の自主的勉強時間は長い。日本の大学でも授業改革が

行われているが、その成果は上がっていない。それが遠隔授業で様変わりした。

遠隔授業になると通学時間、友人との私語、教師の叱責や無駄話等がなく、学生は授業の内容や課題に集中でき、自主的学習時間が確実に増える。スマートフォンをいじったり私語をしたりして授業をやり過ぎることはできず、課題の文献を自分でじっくり読み、レポートを書き試験を受けざるを得ない。ネットを介しての教員との意見交換も増える。

今後は遠隔授業も定着して、大学での授業との併用になることが考えられる。これを契機に、日本の大学の授業や学生の学び方が変わることを期待したい。

